

幼稚園教育実習を通した意識の変容

—保育者を目指す学生の意識調査1—

塚 田 まゆみ

Altering Consciousness through Kindergarten Teaching Practices:
A Survey on Child-Care Studies Students

Mayumi Tsukada

鹿児島純心女子短期大学こども学専攻の学生のほとんどが「保育者になりたい」というきちんとした夢を持って入学してくる。さらに、学んだことを直接職業として生かせるわけであるから勉学にも真剣に取り組んでいる。幼稚園教諭（保育者）の養成課程において、実習は理論と実践をつなぐ重要な学習として位置づけられており、大きな役割を果たしている。そこで、実践現場である幼稚園教育実習について、養成カリキュラムにおける専門性の育成に、実習がどのような課題と役割を担っているかについて検討するために、幼稚園教育実習前後における学生の意識調査を行った。

学生の多くがこれまでに子どもとふれあう機会に乏しく、実習に行ってもどのようにかかわればよいか戸惑っている状況があるようである。本学から初めて送り出す実習生は、最初から一般の幼稚園（附属幼稚園ではない）での実習であり、頼りになる先輩もいない状況の中で幼稚園教育実習を経験することになり、とても楽しみでもあり、とても不安を伴うものでもあったようである。教育実習の直前は不安をたくさん抱えて臨むものの、子どもとのかかわりや指導者とのかかわりの中で、幼稚園教諭の職務の大変さ・偉大さを実感し、実習を終える頃になるとそれなりの満足感・成就感を得ている。そして、幼稚園教諭として必要と思われる資質に関しても、「明るさ」だけではなくそのほかにも多くの大切な資質があることも実感している。また、教育実習を経験することで、保育者となることへの意欲が高まったり、学生自身の職業選択への関心が高まったりと多くの成果をあげることができた。

Key words : [女子短期大学生] [保育者] [幼稚園教育実習] [意識の変容]
[求められる資質]

(Received September 15, 2006)

I はじめに

鹿児島純心女子短期大学に保育士養成課程ができて5年目を迎えた。それから遅れること2年、幼稚園教員養成課程が誕生し、幼稚園教諭2種免許状の取得も可能になった。幼稚園教諭免許と保育士資格の両方を取得した保育者（教育者）が養成されることとなったのである。

幼稚園教諭免許取得の課程は、動き出したばかりではあるが保育士養成と同様、鹿児島純心女子短期大学の建学の精神に則り、キリスト教的ヒューマニズムに基づく「いのちを育む知性と愛」を教育理念に、人類と社会を支える力を備えた「真の実践的教養人」の育成を目指している。

幼児教育に関しては幼保一元化をはじめとする、いわゆる幼稚園教育と保育所保育の統合・融合が進んできている社会情勢の中にあって、当然のことながら、保育（教育）のあり方も対応の仕方も、これまでとは変わらざるを得ない状況も生じてきている。保育者養成においても、時代のニーズに沿った多様な保育サービスに対応することのできる質の高い保育者の養成が求められている。だからこそ、「保育士資格と幼稚園教諭免許のダブルライセンスを取得すること」がこれからの保育者に求められるものと言えるのであろう。

さて、幼稚園教諭免許取得には当然のことながら幼稚園教育実習が伴う（教育職員免許法）。

そこで、実践現場である幼稚園教育実習について、養成カリキュラムにおける専門性の育成に、実習がどのような役割と課題を担っているかについて検討したいと考えた。しかし、幼稚園教育実習が必修となった初年度は、これまでの保育士資格取得のための3つの保育実習（含む施設実習）が学生の2年次に既に組み込まれていたために、4週間の幼稚園教育実習全てを1年生次に組み込まざるを得ない状況にあった。2年目は、こども学専攻内で検討を重ね実習の時期を変えることとなった。現在も改革の途中であり、実習の時期あるいは実習の方法などまだまだ検討の余地がある。諸々のことについて今後も改革がなされていくという前提に立ち、これまでを整理して今後へ生かすために、幼稚園教育実習における学生の意識の変容に注目して、初年度の取組に絞ってまとめることとする。

以下のことがらは全て幼稚園教諭免許取得可能になった初年度の取組に関するものである。

<幼稚園教育実習の概要>

○ 教育実習の意義・目的

養成校で学んだ幼児教育についてのさまざまな理論的知識や、実践的知識を、幼稚園という保育実践の場で子どもとの生活という実体験を通してすりあわせ、理論に裏打ちされた実践であり、実践に裏打ちされた理論となるように確かめる機会である。また、保育者になるという自覚や期待を持つ場でもある。

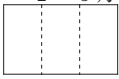
※ 幼稚園教育実習の目標やねらい（学生が理解しやすい表現にすると）

幼稚園において保育の実際を経験する中で、幼稚園の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼稚園の意義及び保育者の責任を体得すること。さらには、園長・教諭を初めとする保育現場での指導のもと、本学で学んだ知識・技能を総合的に応用し、幼児教育の本質的精神と保育技術を習得するとともに、保育者としての資質・使命感・能力を身につ

けることを目的とする。具体的には

- ア 幼児との適切な接し方を学ぶ
- イ 保育内容の認識を確かにしていく
- ウ 保育方法の適切な活用を学ぶ
- エ 環境構成の工夫を学ぶ
- オ 教育事務の適切な処理の仕方を体得する
- カ 理論と実際に関する研究心を持つ
- キ 保育者としての正しい使命感を確立する
- ク 職業人としての着実な勤務態度を学ぶ など

○ 本学における教育実習及び保育実習と履修科目

学年 期	1 年 次			2 年 次		
	前 期	後 期		前 期	後 期	
実 習 体 験 等	8月～10月	11月 	2～3月 	6月 	9月 	11月 
	それぞれの幼稚園でのオリエンテーション	幼稚園教育実習Ⅰ 1週間	幼稚園教育実習Ⅱ 3週間	保育実習 保育所 2週間	保育実習 施設 2週間	保育実習 保育所・施設 2週間
履 修 可 能 な 科 目 配 当	総合人間科目	キリスト教概論 哲学Ⅰ・Ⅱ 心理学 文学Ⅰ・Ⅱ 近代日本文学 日本文化研究 音楽概論 読書と豊かな人間性 国語表現 日本国憲法 英会話Ⅰ・Ⅱ など		人間学 女性論 一般教養特講 体育理論 体育実技 など		
		専門科目 コンピュータ基礎演習Ⅰ・Ⅱ 小児保健 小児保健概論 精神保健 こどもの健康と安全 乳児の保育・Ⅱ こころの発達Ⅰ 社会福祉Ⅰ・Ⅱ こどもの福祉 子育ての原理Ⅰ・Ⅱ こども観と教育の歴史 教育原理 ことばからの育ち こども文学 絵本の世界 音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ リズムあそび 絵による表現Ⅰ 工作による表現 幼児教育課程総論 幼児教育法 幼稚園教育実習指導 こども学フィールドワークⅠ～Ⅳ など		教育情報処理Ⅱ 小児保健実習 こども人間関係 幼児理解 教育心理学 こどものカウンセリング 障害のあるこどもの発達と病理Ⅰ 障害児の支援 身のまわりの自然 社会福祉Ⅲ こどもの福祉Ⅱ 保育内容総論 絵による表現Ⅱ 幼児教育教師論 総合演習 など		

○ 教育実習を実施した幼稚園

見学・観察実習（次の項で記述）

鹿児島市内を中心に11の幼稚園に依頼して、幾人かまとめた学生数で実習
本実習

原則として学生の保護者の居住地にある幼稚園（学生の希望）に依頼して実習

○ 教育実習の段階

様々な分類の仕方・段階分けがあるが、大きく見学・観察実習と本実習の二つに分けて依頼した。

見学・観察実習（1週間）…本実習に先立ち、実習園を訪問して幼稚園の沿革・教育方針・運営などを知り理解する。幼稚園の1日の流れを知り理解する。環境・施設整備等や職員組織等を理解する。園長・教師の職務内容と役割を理解する。幼児の個人・集団の一員としての行動や遊び等を観察する。幼稚園・家庭・地域社会の連携を理解する。など

本実習（3週間）…参加実習＜含む部分実習・一日実習＞

担当教師の補助の立場で保育に参加・援助をする。

保育者としての態度・保育技能・技術を身につける。指導計画に基づく子どもの活動と保育者の働きかけの関係や「ねらい」の達成など計画と実際について理解する。担当教師の補佐として環境構成・教材の準備や後片付け、クラス運営の事務処理、その他の業務をおこなう。担当教師に承認された範囲で直接子どもの遊びに加わったり、保育活動の一部を分担したりしながら積極的に参加活動を行う。一人一人の子どもの個別指導の方法について学ぶ。

部分実習や1日実習保育では、実習生自身の保育計画に基づき、日常の保育を担当する。指導者の保育技術や指導技術を習得することがねらいである。

○ 教育実習で学ぶこと

- ① 子どもの生活の様子を知り、毎日のふれあいを通して子どもの理解を深める。
- ② 教育機関としての幼稚園について機能・内容など体験的に理解する。
- ③ 保育者の職務内容及び役割、職員間のチームワークなど、実習生の立場から体験的に理解する。
- ④ 子ども・保育者と生活を共にすることにより、子どもの理解を深め、保育者の働きかけを観察し、実習生自身も子どもにかかわる行動を通して、自らの児童観・保育観を築き、保育を取り巻く家庭や社会にまで関心を広げる。
- ⑤ 学校で学んでいる理論や技術が、実習の場で具体的に理解されたり総合的にとらえられたりして、さらに次の学習課題が発見され、学習意欲へとつながられる。

Ⅱ 調査方法

1 調査対象

短期大学のこども学専攻（保育者養成課程）

幼稚園教諭2種免許状取得が可能となった初年度の入学生47人

（2年目以降実習時期の変更などが生じたので今回は初年度入学者に限定してまとめる）

2 調査項目・内容と調査期日等

本学から初めて幼稚園教育実習生を送り出すこととなり、学生が教育実習を目前にどのよ

うな意識を持っているのか、また、教育実習を経験することによって、その意識にどのような変化が生じるのかなど以下の項目を設けて調査した。

(1) 幼稚園教育実習前後における不安感・期待感（満足感）調査

1年次に2回の幼稚園教育実習を経験したわけであるが、教育実習Ⅰ直前、教育実習Ⅰ終了後、教育実習Ⅱ直前、教育実習Ⅱ終了（実習の全てが終了して）後に同じ内容の項目で学生の意識の変化について調査した。

幼稚園教育実習前の調査項目「教育実習に行くことに対して……非常に楽しみ・楽しみ・どちらともいえない・不安の方がやや大きい・非常に不安」5件法で選択するよう求めた。同様に実習直後は「教育実習が済んで……非常に楽しかった（満足した）・楽しかった・どちらともいえない・やや不満だった・不満の方が大」の5件法で選択するよう求めた。

(2) 学生自身の幼稚園教諭への向き・不向きの意識調査

学生自身の将来の職業として、幼稚園教諭が自分に向いているか・向いていないかに関する意識調査を実施した。

教育実習前後でその意識に変化があるのか、「自分にはとても向いていると思う・向いていると思う・どちらともいえない・向いていない・とても向いていないと思う」の5件法で選択するよう求めた。

(3) 幼稚園教育実習を経験することで、幼稚園教諭として必要と思われる資質に関して、実習前に抱いていたことがらと比較し変化があったのか・なかったのかを調査した。

項目に関しては、「子どもが好き」という前提に立ち幼稚園教諭として必要と思われる資質をいくつか上げて選択できるようにし、それ以外は自由に記述できるようにした。

Ⅲ 調査結果と考察

幼稚園教育実習の全てが1年次に実施されたこともあり、学生にはかなりの負担があったようである。

1 幼稚園教育実習前後における不安感・期待感（満足度）調査

○ 学生各個人の意識の変化の調査結果は図1に示す通りである。

学生個々に見ると、実習に対しての期待と不安が交錯していることがうかがえる。しかし、10・15・43・46番の学生は比較的上位の安定した意識を持っている。全体的な動向は次の図でも分かることであるが、生まれて初めて経験する教育実習Ⅰの直前に比べて、教育実習Ⅰが終了した後は47人全員が上向きあるいは変化なしの状態となった。実習に参加してみて、喜びや安堵感がとても大きかったことを物語っている。しかし、また教育実習Ⅱを控えた時期になると、ほとんどの学生は気持ちが下降状況となっている。個別に質問したところ「教育実習Ⅰ後、自分がどう変容したか・成長したか幼稚園の現場で比較され

そうで、それが負担になっている」と回答した学生があった。最終的に実習全てが終了した後の意識調査では、ほとんどの学生が上向きの意識であるが、47人中3人の学生が下降となっている。幼稚園という現場を目の当たりにして、保育（教育）職の大変さ・重大さ・自分の未熟さを痛感したなどが意識下降の原因とのことであった。真剣にとらえているこの学生たちこそ真の保育者として向いているのかもしれない。

調査時期 番号	実習Ⅰ 直前	実習Ⅰ 後		実習Ⅱ 直前		実習Ⅱ 後	
		変化		変化		意識の変化	
1	4	↗	5	↘	2	↗	5
2	3	↗	4	↘	1	↗	3
3	2	↗	4	↘	2	↗	4
4	3	↗	5	↘	2	↗	4
5	2	↗	4	↘	1	↗	4
6	3	↗	4	↘	2	↗	4
7	4	↗	5	↘	3	↗	5
8	2	↗	5	→	5	↘	4
9	2	↗	5	↘	2	↗	5
10	3	↗	5	→	5	→	5
11	3	↗	5	↘	3	↗	4
12	3	↗	5	↘	2	↗	4
13	4	↗	5	↘	4	↗	5
14	4	↗	5	↘	2	↗	4
15	3	↗	4	→	4	→	4
16	4	→	4	↘	1	↗	5
17	2	↗	5	↘	2	↗	4
18	3	↗	4	↘	2	↗	4
19	3	↗	5	↘	3	→	3
20	2	↗	4	↘	2	↗	4
21	5	→	5	↘	3	↗	4
22	5	→	5	↘	3	↗	4
23	3	→	3	↘	2	↗	5
24	2	↗	4	↘	2	↗	4
25	3	↗	5	↘	3	↗	5
26	4	↗	5	↘	4	↗	5
27	1	↗	5	↘	1	↗	4
28	4	↗	5	↘	4	↘	3
29	2	↗	5	↘	2	↗	5
30	3	↗	4	↘	3	↗	4
31	5	→	5	↘	2	↗	4
32	3	↗	5	↘	2	↗	5
33	4	↗	5	↘	3	↗	5
34	3	↗	5	↘	4	↗	5
35	3	↗	5	↘	4	↘	3
36	4	→	4	↘	2	↗	5
37	2	↗	5	↘	3	↗	4
38	3	↗	5	↘	3	→	3
39	5	→	5	↘	2	↗	5
40	3	↗	5	↘	2	↗	5
41	3	↗	5	↘	2	↗	4
42	3	↗	4	↘	3	↗	4
43	2	↗	4	→	4	→	4
44	2	↗	4	↘	3	↗	5
45	2	↗	4	→	4	↗	5
46	5	→	5	→	5	→	5
47	4	↗	5	↘	2	↗	4

5…非常に楽しみ（とても満足）
4…やや楽しみ（やや満足）
3…どちらとも言えない
2…やや不安（やや不満足）
1…非常に不安（とても不満足）

□意識の変化

↗ …前回より＋に変化
→ …変化なし・同じ
↘ …前回より－に変化

n = 47

図1 幼稚園教育実習前後における不安感・期待感（満足度）調査

○ 幼稚園教育実習前後における不安感・期待感（満足度）集計

前述の図1を全体的に集計したものが図2である。

	実習Ⅰ直前	実習Ⅰ後	実習Ⅱ直前	実習Ⅱ後
5 非常に楽しみ（とても満足）	5人（10.6）	31人（66.0）	3人（6.4）	19人（40.4）
4 やや楽しみ（やや満足）	10人（21.3）	15人（31.9）	8人（17.0）	23人（48.9）
3 どちらとも言えない	19人（40.4）	1人（2.1）	12人（25.5）	5人（10.7）
2 やや不安（やや不満足）	12人（25.6）		20人（42.6）	
1 非常に不安（とても不満足）	1人（2.1）		4人（8.5）	

(%) n = 47

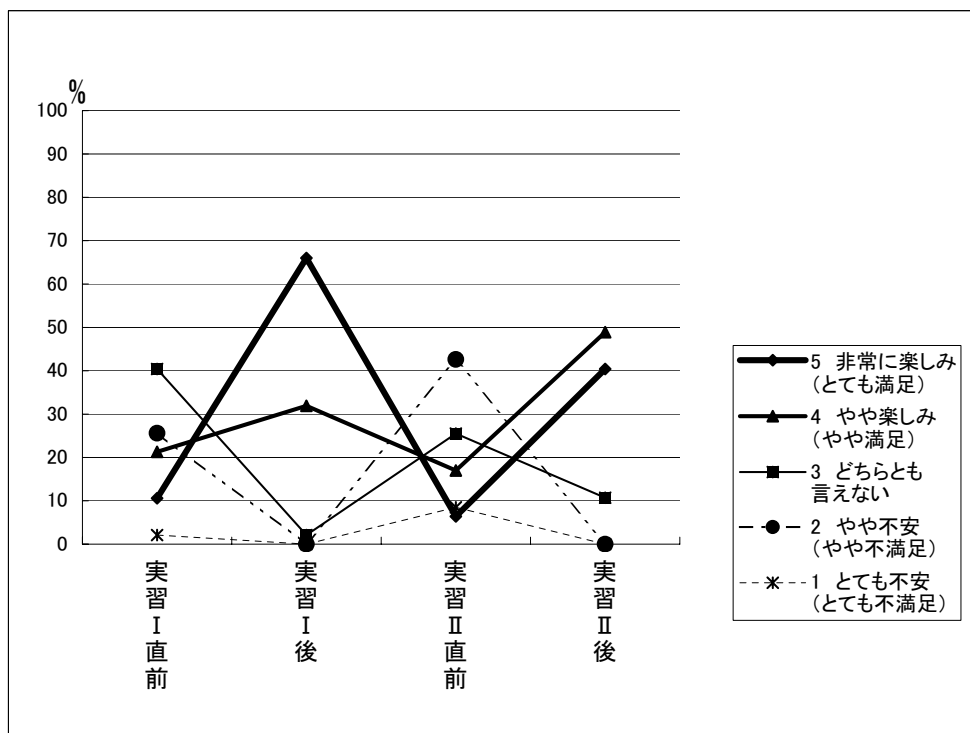


図2 幼稚園教育実習前後における不安感・期待感（満足度）調査集計

多くの学生は、実習に対する期待と不安の両方を持ちながら実習に参加する。いったん現場に出て、保育者としての生活の仕方が分かってくると不安は消えていくが、それに変わって、新たな疑問や保育者としての力量について悩みが出てくるようである。

それぞれの実習前後における全体の意識の動きをとらえることができる。

○ 幼稚園教育実習前後における不安感・期待感（満足度）の意識の変化集計

前述の図1の中から意識の変化に関して集計したものが図3である。

教育実習前後における全体の意識の変化がVあるいは逆Vとなって示されている。

幼稚園教育実習が学生の意識・精神面（心）に与える影響の大きさを物語っている。

	実習Ⅰ前→ 実習Ⅰ後	実習Ⅰ後→ 実習Ⅱ前	実習Ⅱ前→ 実習終了後
前回より+（期待・満足）へ変化した	38人（80.9）		38人（80.9）
ほぼ変化がなかった	9人（19.1）	6人（12.8）	6人（12.8）
前回より-（不安・不満足）へ変化した		41人（87.2）	3人（6.7）

(%) n = 47

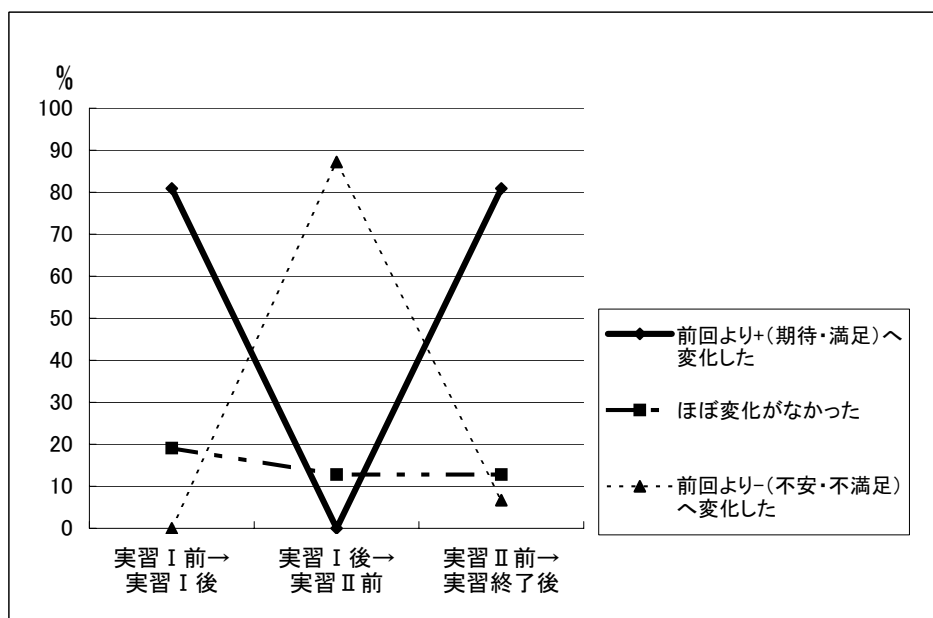


図3 幼稚園教育実習前後における不安感・期待感（満足感）の意識の変化集計

2 学生自身の幼稚園教諭への向き・不向きを意識調査

教育実習を経験することによって、将来の職業の選択肢として、幼稚園教諭が自分にはあっている（向いている）と感じたのか、あるいはあっていない（不向き）と感じたのかをそれぞれ教育実習の前後で調査した結果が、図4である。

教育実習がもたらす効果の一つに「保育者になりたい意欲が増す」ことが上げられる。実習を通じて保育のおもしろさや深さを知って行くにつれて、保育（教育）は大変なことも多いが、やりがいのある仕事であることを実感し、保育者・幼稚園教諭になりたい意欲を高める学生もいる。

前述の図1でも述べたが、その仕事の重大さが分かれば分かるほど「自分には荷が重すぎる」「やっていけない」に即結びつける学生もいる。さすがに本専攻を選んで入学した学生だけあって「とても向いていない」と分析した学生は皆無であった。

	実習Ⅰ前	実習Ⅰ後	実習Ⅱ前	実習Ⅱを終えて
自分にはとても向いていると思う		3人 (6.4)	2人 (4.3)	3人 (6.4)
向いている	8人 (17.0)	16人 (34.0)	15人 (31.9)	20人 (42.6)
どちらとも言えない	37人 (78.7)	27人 (57.5)	29人 (61.7)	20人 (42.6)
向いていない	2人 (4.3)	1人 (2.1)	1人 (2.1)	4人 (8.4)
とても向いていない	0人	0人	0人	0人

(%) n = 47

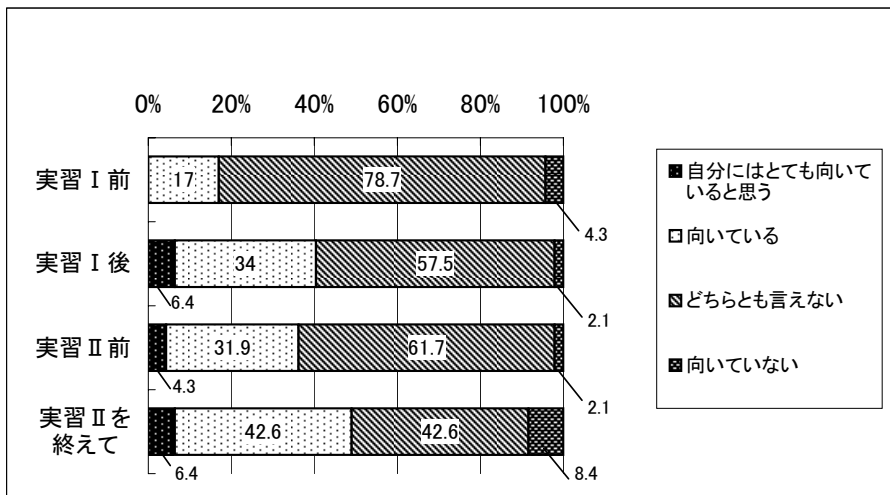


図4 学生自身の幼稚園教諭への向き・不向き意識調査

3 幼稚園教諭として必要と思われる資質に関する調査

「子どもが好き」という前提に立った上で、そのほかに幼稚園教諭として必要だと思われる資質について重要であると考えられる順に第1位～第3位まで挙げてもらった。その結果が図5に示す通りである。

第1位から第3位までを絞ることで一苦労したことであろうが、教育実習前に考えていたものと教育実習終了後に考えたものを比較してみると、保育者として必要であると思われる資質が幅広い項目にわたること・実習前には気づかなかった大切な資質（保育者としての要素）がたくさんあることなど実習を通して実感したようである。

	実習Ⅰ前の思い			実習Ⅱ終了後の思い		
1	明るさ	責任感	研究心	研究心	指導力	身だしなみや言葉遣い
2	体力	積極性	明るさ	判断力	積極性	謙虚さ
3	包容力	明るさ	根気強さ	明るさ	判断力	根気強さ
4	意欲	包容力	責任感	意欲	包容力	明るさ
5	明るさ	優しさ	包容力	実践力	公正さ	包容力
6	明るさ	体力	積極性	明るさ	積極性	体力
7	優しさ	包容力	明るさ	礼儀正しさ	明るさ	積極性
8	明るさ	包容力	判断力	指導力	責任感	意欲
9	明るさ	体力	根気強さ	指導力	研究心	身だしなみや言葉遣い
10	明るさ	意欲	体力	明るさ	責任感	指導力
11	明るさ	意欲	体力	明るさ	公正さ	研究心
12	優しさ	包容力	明るさ	指導力	明るさ	体力
13	明るさ	優しさ	判断力	明るさ	身だしなみや言葉遣い	判断力
14	明るさ	包容力	忍耐力	優しさ	待ちの姿勢	研究心
15	包容力	優しさ	指導力	優しさ	公正さ	実践力
16	明るさ	責任感	意欲	明るさ	指導力	責任感
17	明るさ	体力	指導力	責任感	判断力	優しさ
18	責任感	優しさ	明るさ	包容力	体力	根気強さ
19	責任感	明るさ	積極性	明るさ	積極性	判断力
20	明るさ	意欲	礼儀正しさ	明るさ	体力	根気強さ
21	明るさ	体力	優しさ	明るさ	積極性	体力
22	包容力	明るさ	責任感	包容力	指導力	根気強さ
23	積極性	明るさ	協力的態度	愛する心	明るさ	積極性
24	責任感	指導力	優しさ	明るさ	指導力	優しさ
25	明るさ	身だしなみや言葉遣い	体力	指導力	体力	明るさ
26	意欲	責任感	包容力	明るさ	包容力	実践力
27	積極性	実践力	判断力	明るさ	積極性	指導力
28	明るさ	優しさ	体力	責任感	根気強さ	包容力
29	明るさ	優しさ	意欲	身だしなみや言葉遣い	明るさ	意欲
30	明るさ	忍耐力	積極性	忍耐力	指導力	優しさ
31	包容力	優しさ	責任感	包容力	優しさ	親切心
32	明るさ	積極性	包容力	明るさ	忍耐力	礼儀正しさ
33	優しさ	判断力	意欲	明るさ	公正さ	子・親とのかかわり
34	明るさ	根気強さ	積極性	明るさ	積極性	研究心
35	明るさ	体力	積極性	協力的態度	指導力	責任感
36	責任感	優しさ	実践力	忍耐力	指導力	明るさ
37	明るさ	包容力	優しさ	明るさ	指導力	優しさ
38	明るさ	優しさ	根気強さ	根気強さ	研究心	体力
39	明るさ	判断力	体力	身だしなみや言葉遣い	責任感	明るさ
40	指導力	優しさ	明るさ	実践力	公正さ	指導力
41	明るさ	根気強さ	包容力	実践力	明るさ	身だしなみや言葉遣い
42	明るさ	優しさ	体力	明るさ	研究心	体力
43	体力	明るさ	意欲	体力	創造力	明るさ
44	責任感	明るさ	優しさ	根気強さ	明るさ	忍耐力
45	明るさ	優しさ	積極性	明るさ	積極性	実践力
46	明るさ	優しさ	体力	明るさ	実践力	研究心
47	責任感	明るさ	礼儀正しさ	体力	判断力	包容力

図5 幼稚園教諭に必要と思われる資質について（第1位～第3位）

（「こどもが好き」という前提に立ち、その他に必要なと考えられるもの）

図6は前述のもののうち特に第1位に挙げたものについて集計したものである。

順位	実習Ⅰ前の考え	《変化》	順位	実習Ⅱ終了後の考え
1	明るさ (27)		1	明るさ (19)
2	責任感 (6)		2	指導力 (4)
3	包容力 (4)		3	包容力 (3)
4	優しさ (3)			*実践力 (3)
5	体力 (2)		5	優しさ (2)
	意欲 (2)			体力 (2)
	積極性 (2)			責任感 (2)
8	指導力 (1)			*身だしなみや言葉遣い (2)
				*忍耐力 (2)
				*根気強さ (2)
			11	意欲 (1)
				*研究心 (1)
				*判断力 (1)
				*礼儀正しさ (1)
				*愛する心 (1)
				*協力的態度 (1)

*印は新たに加わったもの
(人) n = 47

図6 幼稚園教諭に一番必要と思われる資質に関する調査集計

(「こどもが好き」という前提に立ち、他に必要だと考えられるもの)

実習前であろうと実習後であろうと、予想通り「明るさ」を挙げたものが一番多い。実習後では「指導力」を挙げた者が増え、新たに挙げた項目として少数ではあるが「実践力・身だしなみや言葉遣い・忍耐力・根気強さ・研究心・判断力・礼儀正しさ・愛する心・協力的態度」などがある。

「明るさ」に関して見てみると、実習前も実習後も第1位に挙げた者は47人中13人である。実習前には「明るさ」を挙げて実習後には他の項目を挙げた14人の内訳は「指導力3人、実践力2人、責任感2人、身だしなみや言葉遣い2人、研究心・優しさ・忍耐力・協力的態度・根気強さそれぞれ1人ずつ」であった。一方、新たに6人が「明るさ」を挙げている。

「包容力」について見てみると実習前に4人が第1位に挙げているが、実習後では2人が「明るさ・優しさ」に変えている。

実習において、学生と指導教員とのかかわりや幼児とのかかわり、あるいは指導教員と子どもとのかかわりを目の当たりにして様々なことを感じたことがうかがえる。

保育者に求められる資質としては種々のものが挙げられるが、学生が理解しやすいよい保育者になるために身につけたいものとして「健康である(激務に耐えられる)・明るく素直である(子どもに明るく接することができる 挨拶ができる)・行動力がある(行動することが次への出発になる)・前向きに取り組む(打たれ強い)・清潔感がある(服装や身だしなみにも気を配る 保育者は見られている 笑顔)・気働きができる(頭の回転が速くすぐ対処できる)・頭がよい(頭の回転が速く自分の頭で考えられること)・他者とのチームワークがとれる(人とかかわったり協力したりする)・声が通る(メリハリが必要)・まじめ(まじ

めに真摯に取り組む)である」などが挙げられている。

Ⅳ おわりに

保育(教育)は日々子どもたちとのやりとりの中で、子どもたちにどのような経験をさせることが必要であるかを考えて保育(教育)を構想していかなければならない。保育(教育)は、極めて高度な思考力が求められる専門職である。子育て支援に関すること、特別な配慮を必要とする子どもへの対応の仕方など保育課題は山積し多様化してきている。だからこそ、相応に熟達した教師が求められるわけであるが、その熟達した教師となるためには現場の経験を積み重ねるしかないのである。

教育実習はまさにその緒にあたる部分である。乳幼児時代が、長い人生の中にあって大木の根っこにあたる最も大切な時期であるのと同様に、学生時代の教育実習も保育(教育)職を目指す学生にとっては、とても重要な時期であり大切な経験であると思う。

中央教育審議会は平成16年10月、「今後の教員養成・免許制度の在り方について」の諮問を受け、平成17年12月「中間報告」を公表した。その中で、教職課程のうち特に教育実習については、「自らの教職への適正や進路を考える貴重な機会であり今後とも大きな役割が期待される」とし、履修要件の厳格化や実習先との連携の強化、事前事後指導の徹底等々一層の改善充実を図ることが必要と述べている。

今後も、幼稚園教諭の専門性と教育実習が担う課題、幼稚園教育実習ⅠとⅡの関連性、評価(形成評価と最終評価、評価項目など)の問題、実習幼稚園や実習指導者との連携の在り方など、実習そのものにかかわる課題や、カリキュラムの改善など保育者養成校としての課題解決に向けて取り組んで行かなければならない。

保育(教育)が実践によって裏打ちされるがごとく、まずは保育者の本質とも言える「豊かな人間性を備えた保育者」の養成を念頭に、日々学生と共に研鑽を積んでまいりたい。

【引用・参考文献】

- 文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館(平成11年)
厚生省「保育所保育指針」(平成11年厚生省発表の全文)フレーベル館(平成11年)
民秋言他：保育ライブラリ 幼稚園実習 41 68-69 北大路書房(2004)
小館静枝・小林育子：保育所・幼稚園実習のすべて 12 相川書房(2001)
河邊貴子・鈴木隆：保育・教育実習 フィールドで学ぼう 26-30 同文書院(2006)
文部科学省中央教育審議会(中間報告)：今後の教員養成・免許制度の在り方について
(平成17年12月8日)
森上史朗・大豆生田啓友：幼稚園実習 保育所・施設実習12 ミネルヴァ書房(2004)
田中正浩他：免許取得に対応した幼稚園教育実習 学事出版(2002)
待井和江他：保育実習・教育実習 71-74 ミネルヴァ書房(2003)
田中まさ子他：幼稚園保育所実習ハンドブック (株)みらい(2004)